

1 題材 夏の思い出

2 指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは、日本歌曲やイタリア歌曲において、イメージをふくらませながら歌唱表現を工夫する学習を経験している。そこでは、表現したい歌い方に近付けるために、音楽を形づくっている要素に着目しながら、自分の思いや意図を表現するために必要な知識や技能を身につけてきた。このような子どもが、「夏の思い出」においても、歌詞の情景や作曲者や作詞者の心情を想像しながら、曲にふさわしい表現について、音楽を形づくっている要素に着目しながら様々な表現方法を考えたり、実際に歌ったりする活動に取り組めば、豊かな感性が培われていくだろう。

そこで、題材を構想するに当たっては、次のような教材を設定する。

＜題材について＞

本題材は、尾瀬の情景や作詞者の心情をもとに、自然の美しさや郷愁の念を旋律で表現した魅力を捉えることができる教材となっている。ここでは、歌詞の情景をイメージしながら、自分の思いを音楽で表現するために試行錯誤しながら歌唱する活動が大切である。そこで、表現を工夫するために必要な、日本歌曲にふさわしい身体の使い方や発声方法について追究する活動を設定する。子どもは、表現したいイメージに近づけるように歌唱を重ね、相互鑑賞したり自分で振り返ったりしながら、「夏の思い出」にふさわしい表現について見出していくだろう。

そのような学びを実現するために、指導にあたっては、次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

- 作詞者の尾瀬への思いや、作曲者の思いなど、作品の背景や歴史について考える。そうすることで、曲に対するイメージをふくらませながら歌唱に取り組めるようにする。
- 作詞者や作曲者の思いと自分の思いを照らし合わせながら歌唱することで、「夏の思い出」のイメージを表現できるように、どのように歌唱したらよいか考えられるようにする。
- 相互鑑賞や自己の振り返りを通して、自分の思いを表現できているか確認する。そうすることで、よりよい表現方法の追究や日本歌曲の魅力を感じ取れるようにする。

3 目標

- (1) 「夏の思い出」にふさわしい曲想と音楽の構造や、歌詞の内容との関わりについて理解するとともに創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。【知識及び技能】
- (2) 「夏の思い出」にふさわしい強弱、音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取しながら、知覚したものと感受したものの関わりについて考え、歌唱表現を創意工夫する。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 「夏の思い出」の歌詞の内容や曲想に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。【学びに向かう力、人間性等】

4 指導計画（総時数 4 時間）

次	学習活動・内容	題材の指導上の留意点
一 ②	○ 作品の背景や歴史について学ぶ。 ・作詞者の思いや曲ができあがるまでのエピソード ・作品に対するイメージの共有 ・音程や表現記号をふまえた譜読み ○ 自分が曲の中で一番表現を工夫したいところを選択する。 ・pp、テヌート、フェルマータなど	○ 戦時中に書かれた詩であることや、平和への願いが込められていることを紹介する。そうすることで、作品に込められた思いを感じ取りながら、心を込めて歌唱できるようにする。 ○ 強弱や旋律の美しさなど、聴かせどころが多くあるなかで選択させることで、表現を工夫する多様な方法に気づき、音楽を形づくっている要素への理解を深められるようにする。
二 ② 本 時 2 ／ 2	○ 一番表現を工夫したいところを、実際に歌いながら追究していく。 ・グループ（個人）別歌唱練習 ・録音や録画での振り返り ・相互鑑賞 ● 「夏の思い出」や日本歌曲の魅力について学ぶ。 ・前時の振り返りをふまえた歌唱 ・日本歌曲にふさわしい歌唱表現や夏の思い出の魅力の共有	○ 実際に歌いながら、思い描くイメージと合っているか、または近づいているか試す活動を設定する。そうすることで、自分の思いや意図がどのように表現に表れているかを確認できるようにする。 ● 工夫した点と、その根拠を共有しながら歌唱させる。そうすることで、仲間との学び合いを通して、日本歌曲の魅力について考えを深められるようにする。

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 「夏の思い出」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している。 技 創意工夫を生かした表現で「夏の思い出」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	思 「夏の思い出」の旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「夏の思い出」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	態 「夏の思い出」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

6 本時案 ー第二次・2時分ー

(1) 主眼 音楽記号を生かして「夏の思い出」を歌唱する活動を通して、日本歌曲の魅力について考えを深めることができる。

(2) 準備 ワークシート、タブレット

(3) 学習の展開

学習活動・内容	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1 前時の振り返りをふまえて歌唱する ・強弱記号の表現 ・フェルマータの表現	ア pp はとても弱くだけど 優しいイメージで歌おう イ フェルマータでは、尾瀬の壮大な自然をイメージしよう ウ 尾瀬沼の美しい情景をイメージして歌おう	・ 自分が特にどの部分の表現を工夫しようとしたか意識して歌うように促す。そうすることでどのような思いをもって歌おうとしているか明確にできるようにする。	10
2 具体的な工夫点を紹介する ・強弱記号の表現方法 ・フェルマータの表現方法	ア pp は口を大きく開けないと、何を伝えたいか分からないのでしっかり開いた イ フェルマータは一番高い音なので、眉毛をあげて表情豊かに歌った ウ 子音を丁寧に発音した エ のばす音は、口の中を開けて響かせるように歌った	・ この曲で感受したことや表現したいことを、具体的にどのような技能を使って歌唱すればよいかを考えさせる。そうすることで、音楽は、知覚と感受が伴って表現することが重要であることを感じられるようにする。	30
3 これまでの工夫を生かして、曲全体を通した歌唱に取り組む ・風景写真、動画視聴 ・歌詞の朗読	ア 水芭蕉の花は白くてかわいらしいから、そこを表現したい イ 尾瀬の雄大な自然を感じながら歌いたい ウ 最後のフェルマータに平和への願いを込めて歌いたい	・ まとめの歌唱をする前に、再度尾瀬の情景や歌詞を読む場面や、どのように歌いたいか語り合う場面を設定する。そうすることで、お互いの表現したい音楽について考えられるようにする。	40
4 日本歌曲の魅力について語り合う ・歌い継がれている理由	ア 日本の情景や、昔懐かしい作詞者の思い出が描かれている イ 難しい楽譜ではないけれど旋律がきれいだから ウ 歌詞と旋律の動きがあるところが良い	・ 日本歌曲の既習曲を歌ってみたり、楽譜を見たりする。そうすることで、日本歌曲の速度、リズム、旋律、歌詞などの特徴や魅力に気づけるようにする。	50

(4) 評価規準と方法

音楽記号を生かして「夏の思い出」を歌唱する活動を通して、日本歌曲の魅力について考えを深めることができたかどうか、歌唱する姿やワークシートからみとる。

<メモ>